

オホーツクビジョン

【目的】

オホーツク地域が雄大な自然と共に持続可能な発展を遂げ、
住民一人ひとりが幸福で豊かな暮らしを営み、人生を謳歌すること。

【目指す姿】

1. 『人・地域・自然とのつながり』

母なるオホーツクの自然に感謝し、ふるさとを想う気持ちで結ばれた人と人が多様性を認め支え合い、地域と地域が活発な交流で高め合う「関係づくり」

【方針】

- 1-1. 地域を元気にするコミュニティの活性化
- 1-2. 地域内外の新しいネットワークの形成
- 1-3. 多様な連携と共働ができる社会システムの実現
- 1-4. 畏敬の念を持ちながら一人ひとりが参加する自然保護
- 1-5. 天然資源を保全し活用する持続可能な仕組みづくり

2. 『一人ひとりの豊かさ』

新しい時代を切り拓く知性・感性と、真の豊かさを知る寛容な心、そして生涯元気な身体を持つ「人づくり」

- 2-1. 心身の基礎を培う自然体験
- 2-2. 地域の特性を活かした体験学習
- 2-3. 先人から継承した地域の歴史教育
- 2-4. 心身を鍛えるスポーツ振興
- 2-5. 想像力を育む文化活動振興
- 2-6. 生きがいを支える生涯学習
- 2-7. 生涯いきいき活躍できる健康生活

3. 『社会経済環境の充実』

持続可能で自立した元気な経済、世代を超えて安心して暮らせる社会と、次代に向けた新しいオホーツク文化の創造を目指す「環境づくり」

- 3-1. 地域資源の高付加価値化と地産地消^{※注}の追求
- 3-2. 持続可能で効率的な社会基盤の形成
- 3-3. 誰もが魅力を感じる労働環境の実現
- 3-4. 安心して出産、子育てができる環境の整備
- 3-5. 時代を先導する医療・福祉の推進
- 3-6. 愛着が湧く文化的なまちづくり
- 3-7. 自然の恩恵と生活の質を大切にす暮らしのすすめ

※注) 似た言葉として「地産地消」があるが、起点を「生産」とする「地産地消」と異なり、「消費」を起点とし、地域で消費するものは地域で生産するという考え方。